

福山大学 経済学部 国際経済学科 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域: 使命・目的、教育目的

2019年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	大学の建学の理念や教育理念に基づき、経済学部の使命・目的の設定は完了している。経済学部の目的(経済学部規則第2条2)に次のように定められている。経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生をそだてるとともに、企業や組織体を牽引するような潜在力を育む。国際経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を育成する。これは平成24, 25年に議論され、平成26年度から経済学部の目的として、経済学部規則に示された。今後もこの使命・目的を踏襲する。
-------	--

2019年度

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	国際経済学科の使命・目的は「広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を育成する」。であり、具体的かつ明確である。
年度目標	この使命・目的に基づき、具体的なグローバル教育を実践する。海外研修、留学に積極的に学生を送り出すことをミッションとする。
年度報告	この使命・目的に基づき海外研修、留学に積極的に学生を送り出すことができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①国際経済学科学生名簿(海外渡航歴記載)②学長室ブログ③経済学部ブログ④国際経済学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	国際経済学科では、グローバル人材の育成を目標に掲げており、その個性・特色を学内外に明示している。
年度目標	広報活動(高校訪問、学長室ブログ、SNS等)を通じてさらにわかりやすく学外に明示する。
年度報告	高等学校の進路説明会等に教員が積極的に参加して、学科の魅力を高校生に直接伝えることができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ②国際経済学科Facebook③福山大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	グローバル化が進む今日、社会の要請や背景の変化について、学科会議等で検討している。

年度目標	現在の努力を継続
年度報告	学科会議等において検討した。
達成度	A
改善課題	社会のニーズと高校生のニーズのギャップをどのように調整するかという課題は依然として残っている。
根拠資料	各回学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	色々な考え方があるが、おおむね理解と支持が得られている。また、学科会議で自由に議論する環境が整っている。
年度目標	さらなる理解と支持のために議論を重ねる。
年度報告	学科の使命・目的及び教育目的は極めて明確になっており、教職員の理解は得られている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	各回学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	学長室ブログ、経済学部ホームページやSNSなどを通じて、国際経済学科のミッションと活動を学内外に公表周知している。
年度目標	さらに内容の充実に努める。
年度報告	トップ10プログラム、交換留学やトビタテ！留学JAPAN地域人材コースなどの活動を公表した。
達成度	S
改善課題	さらに学外への公表周知に努める。
根拠資料	①学生便覧②学部ホームページ③大学要覧④学長ブログ⑤学科ニュースレター⑥学科FD
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	学部の長期ビジョンや学科の将来構想に反映している。
年度目標	国際経済学科の魅力をより一層周知するために高校等に説明を行う。
年度報告	使命・目的および教育目的に基づいた広報活動を実施した。
達成度	S
改善課題	さらに学外への公表周知に努める。

根拠資料	①大学要覧②学長ブログ③学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーのいずれにも反映し、国際経済学科の特徴を明確にしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①学生便覧②大学ホームページ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	外国人教員も2名在籍しており、グローバル人材育成という目的との整合性は取れている。
年度目標	現状を維持
年度報告	若手教員を採用することができた。
達成度	S
改善課題	教員の退職に伴い、さらに優秀な人材を採用したい。
根拠資料	①大学ホームページ②大学要覧
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

基準2. 学生

領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2019年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	学生の受け入れに関しては入学定員充足率100%を目指して学科教員全員が今まで以上の努力をする必要がある。経済学部の重要課題のひとつとして退学者問題がある。退学者への対応は退学原因を洗い直すと共に、具体的な対策を検討する。学生の数学能力の向上を図る。教養ゼミにおいて中高レベルのリメディアル講義を実施してきたが、この方法を再チェックし、継続するか、異なる方法が必要かの判断をする。複数の教員が一人の学生に関与する体制を維持する。学生生活に関する相談や進路支援、学習環境の整備や学生の意見をどのように反映するかについても担任、副担任、学科長、学部長等が連携をして学生の状況を把握し対策する。
-------	---

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	国際経済学科のアドミッションポリシーを大学要覧やホームページなどで学内外に周知している。

年度目標	高校訪問等を通じて学外に周知する。
年度報告	高校における進路説明会や広報活動で周知を行った。
達成度	A
改善課題	学科の魅力についてより一層学外への公表周知に努める。
根拠資料	①学生便覧②大学ホームページ③大学要覧④学長ブログ教員出張報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	平成30年度入試までは定員割れをしているので必ずしもアドミッションポリシーに沿った学生ばかりが入学しているとはいいいがたい。グローバル人材強化指定校入試はその対策となるべきであるが、機能しているとはいいいがたい。
年度目標	グローバル人材強化指定校入試などのPRを継続する。
年度報告	グローバル人材強化指定校入試の志願者が1名のみと依然少なかった。
達成度	B
改善課題	グローバル人材強化指定校入試などを学外に周知する。高等学校での進路説明会等に出向き、高校生に直接PRする。
根拠資料	①学生便覧②大学ホームページ③大学要覧④学長ブログ⑤教員出張報告書
次年度の課題と改善の方策	グローバル人材強化指定校入試などのPRに努めるとともに原因を検討する。
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	H30年度入試では志願者が減少したが、H31年度入試は再び志願者が増加している。増加原因は不明な部分が多いが経済学科の応募者増加が影響しているものと思われる。また、経済学科に入学した学生のうち国際志向の強い学生にはなぜ国際経済学科でなく経済学科を選択したかを聞き取りもしている。
年度目標	さらに詳しく分析し、入学定員充足率を向上させる必要がある。
年度報告	定員50名に対して、入学者は49名、入学定員充足率は98%であった。増加の原因の一部は経済学科の志願者増によるものである。
達成度	A
改善課題	入学定員の充足をめざす。
根拠資料	①学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	平成30年度入試までは入学定員50名を満たしていない。学科長を中心に対策を考え、その対策を学長に提出している。高校訪問、高校への出前授業、高校での進路説明会への参加等、学科教員が積極的に行うことを確認している。また、グローバル人材育成という学科の特徴を学外に周知するために、学長室ブログ、学部ホームページやSNSを利用して情報を発信している。その結果、平成31年度入試については志願者が増加した。
年度目標	さらなる努力を継続

年度報告	高等学校での進路説明会には学科教員が率先して参加した。また、優秀な留学性確保のために地域の日本語学校教員とも連絡を取り合った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録②教員出張報告書③入試広報室資料
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学科教員による学習支援体制を学内外に公表している。具体的にはTOEIC、HSKや英語によるプレゼンテーションなどがある。全学生について学科にて各学生の学習ポートフォリオを作成し、学科会議にて学生の状況を報告しあい、留年の可能性の高い学生を早期にピックアップして担任・副担任を中心として丁寧に指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	計画通り実施した。
達成度	A
改善課題	留年可能性のある学生、授業力支払い困難な学生、発達障害を抱える学生など多様化する問題に対応する必要がある。
根拠資料	①大学教育センター学習支援資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	現在のところ学科のカリキュラムにおいてTAは活用していない。トップ10プログラムでは学生リーダーを活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	トップ10カリキュラムで学生リーダーを採用した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①トップ10カリキュラム計画書②学科会議資料③学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	教育課程内では1年生のキャリアデザインⅠ(必修)がある。大学教育センター開講のキャリアデザインⅡ～Ⅳの受講を勧めている。また、インターンシップにも参加するよう教員が学生に指導している。学科としては海外インターンシップについても積極的なチャレンジを期待している。

年度目標	現状の努力を継続
年度報告	海外研修と時期が重なる等の理由で国内インターンシップ参加者は決して多くなかった。トビタテ！留学JAPAN合格者が、国内及び海外インターンシップを行った。
達成度	A
改善課題	国内、海外を問わずインターンシップに積極的に参加させたい。
根拠資料	①BINGO OPENインターンシップ参加学生評価表②トビタテ！留学JAPAN資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊟ 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生の進路に関しては検証している。学科の特色として留学生が多く、大学院進学や帰国後就職する学生が多い。
年度目標	検証し、就職支援、進学支援に努める。
年度報告	資料は収集し、堅守している。留学生の比率が高く、大学院進学者が多い。
達成度	S
改善課題	学科の特徴を生かした就職先の開拓が必要である。
根拠資料	就職課資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊟ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	TOEICやHSK受験、ビジネス検定の受験等を積極的に勧めている。特にTOEICとHSKについては学科教員が授業時間内外に学修支援を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	TOEICやHSKに一定の成果が見られた。特にTOEICでは日本人学生の中にも高得点を獲得する学生が散見される。
達成度	S
改善課題	さらに多くの学生に受験を勧める。インターンシップへの参加を勧める。
根拠資料	①学科会議資料②国際経済学科学生名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊟ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	学部内就職委員とゼミ担任が協力して指導している。模擬面接や履歴書の添削等を担任が実施している。学生に就職課の活用を勧めている。
年度目標	学科の特色を活かした就職の質の向上に努める。
年度報告	内定率は向上しているが質の改善が求められる。まだまだ学生の行動が遅い。
達成度	A
改善課題	就職活動の早期化、多様化に伴い早くから就職指導が必要になる。
根拠資料	就職課資料

次年度の課題と改善の方策	
2019年度	経済学部 国際経済学科
中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	経済的支援には全学の特別奨学生制度がある。また、留学生に対しては授業料減免制度や各種奨学金があり、ゼミの指導教員が全力でバックアップしている。これらは学生はもちろん教職員にも周知されている。社会にもホームページ等を通じて公開している。また、アルバイトに関しては学生課の窓口を利用するよう指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	留学生の授業料減免制度や各種奨学金制度について学生に周知するとともに応募を促した。2年連続で学科の留学生がロータリー奨学金に合格した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生課JASSO奨学金資料②国際交流課資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	ハラスメント防止に関するFDに参加し、学科教員各自がハラスメント防止について意識している。特に学科においてハラスメント防止のための方策は実施していない。
年度目標	学科教員、学生ともに再度注意を促す。
年度報告	留学生によるハラスメント関連の問題があった。
達成度	B
改善課題	学部委員を中止にハラスメントの発生防止に取り組む。
根拠資料	学生課資料
次年度の課題と改善の方策	学科教員、学生ともに再度注意を促す。特に留学生については入学時に文化の違いを考慮して注意喚起を行う。
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	サークル活動については体育会系、文科系を問わず教員が顧問となって活性化の手助けをしている。留学については学科の特色から教員が学生に積極的に提案しており、複数の学生が留学中であり、留学希望者も多い。また、福山国際子どもアカデミーのボランティアにも複数の学生が参加し、ボランティアにも複数の学生が参加して、地域で社会貢献活動を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	留学、海外研修でのボランティア活動など積極的に行っている。こうした活動に参加する学生数は増加の傾向にある。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ②国際経済学科FB③学科ブログ

次年度の課題 と改善の方策	
2019年度	経済学部 国際経済学科
中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	校地、校舎等の整備については学科では実施不可能である。大学全体としては、十分とは言えないが、順次整備されている。学科に留学生が増えており、留学生のための施設が十分ではない。学生のためのアメニティーが貧弱である。討論しながら快適に自習できるような環境はプロジェクトラウンジやラーニングコモンズなど整いつつある。これらの施設を最大限に活用している
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	運営・管理は学科レベルで行うものではないが、施設を積極的に活用する。
根拠資料	2019年度経済学部予算要求書
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	図書館のラーニングコモンズや共同利用センターのプロジェクトラウンジなどを利用している。ICT教室については情報教育の授業で使用しており、使用方法を学習した学生が授業時間外にも活用している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	プロジェクトラウンジ、ラーニングコモンズの利用が多くはなかった。
達成度	A
改善課題	授業等でもより積極的に活用するよう努める。
根拠資料	経済学部令和2年度予算要求書
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	バリアフリーに関しては学科単独での対応は不可能である。アメニティスペースの確保については学生が昼食等をとることができる部屋を1号館5階に確保している。
年度目標	パソコン必携化に伴いパソコンを利用して自習や歓談ができるスペースを設けたい。
年度報告	女子学生用に準備したスペースは広く学生に利用されたが、利用は一部の学生にとどまっている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	2019年度学生便覧
次年度の課題 と改善の方策	

点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	時間割と教室の関係から教室がかなり不足しており、教務委員が頭を悩ませている。他学部・他学科との関係もあり単独で解決できる問題ではない。教室の設備(DVD等)の老朽化も目立ち、整備をお願いしたい。
年度目標	より一層の整備をお願いする。
年度報告	現状維持
達成度	A
改善課題	カリキュラムのスリム化が必要である。
根拠資料	2019教務の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	学科単独の施設・設備がないため整備点検を行っていない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	2019年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	劇物・危険物はない。
年度目標	現状を維持
年度報告	特になし。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	劇薬・危険物はないので根拠資料もない。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	防災訓練に関しては大学祭時に全学の火災訓練に教員・学生が参加した。学科単独では実施していない。危機管理マニュアルについては大学のものを援用する。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。海外研修・留学時における安全マニュアルについては整備しており、講習を行っている。
達成度	A

改善課題	AEDの使い方など学ぶ必要がある。
根拠資料	①福山大学危機管理基本マニュアル②海外での留学・研修などに係る安全マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の意見・要望を把握する体制は構築されていない。現状では担任がその都度吸い上げ、学科会議等で議論している。体制を構築し、分析するシステムを整備する必要がある。
年度目標	現状の努力を継続
年度報告	学科で学修支援を行っているが、学生の意見を分析検討できていない。
達成度	B
改善課題	体制を構築し、分析するシステムを整備する必要がある。
根拠資料	大学教育センター学習支援に関する各種資料
次年度の課題と改善の方策	学生の意見を分析検討する。
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の担任、副担任、学科長、学部長が配慮をしている。必要な場合には、心身の健康維持のために、カウンセリングを受けることを勧める。学生がカウンセリングを受けることを嫌う場合には、担任がカウンセリング担当者から助言を受ける。発達障害を抱える学生や不登校になる学生が増えているので、担任を中心にケアを行っている。
年度目標	現状の努力を継続
年度報告	発達障害を抱える学生や不登校になる学生が増えているのでケアを行った。留学生と日本人学生、留学生どうしのトラブルなど、留学生関連のトラブルが発生し、結果。退学者を出すことになった。
達成度	A
改善課題	担任が問題を吸い上げ、学科全体または学部で対応する体制づくり。
根拠資料	①学生便覧②教員オフィスアワー表③経済学部委員会名簿④学生課資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	学修環境も学修支援と同様に、従前から関係部署と連携をとりながら各種支援を行う体制が構築されており、学生便覧や各種オリエンテーション、ガイダンスで周知している。社会にもホームページ等を通じて公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①学生便覧②学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

基準3. 教育課程

領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2019年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	卒業認定に関しては、基本的に学部・学科のディプロマポリシーに基づく。ディプロマポリシーに基づきカリキュラムが編成されているので、そのカリキュラムに対しての学習成果を平成29年度に作成したアセスメントポリシーを用いて、学科における教育課程と学修成果について、評価を行い、必要があれば教育課程を改善する。また、学生個人の卒業時における学習成果についてもアセスメントポリシーに基づいて評価する。また、平成30年度から本格的に卒業論文のルーブリック評価を導入し活用している。
-------	---

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーは学生便覧、大学要覧やホームページにより学内外に周知されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学要覧 ②福山大学ホームページ ③学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の作成は教務委員会を中心に学科で議論し、その議論結果に基づき学部教授会で審議している。これらの基準に関してはカリキュラム表、カリキュラムマップなどの形で学生便覧上で学内に、福山大学ホームページ上で学外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ ②経済学部パンフレット(平成29年度版) ③経済学部教授会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準は学生便覧等で公表しており、厳格に守られている。また、卒業認定基準の一部として卒業論文ルーブリックに関しても学生に開示し説明している。編入留学生の単位読み替え、留学した学生の単位読み替え、認定、海外研修の単位認定など、公平な評価についての課題が多い。
年度目標	マニュアル化を進める。
年度報告	編入留学生の単位読み替え、留学した学生の単位読み替え、認定、海外研修の単位認定など、公平な評価についての課題が多いが、教務委員会を中心にマニュアル化は進んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学部教授会議事録 ②教務課提出読み替え資料
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧で公表している。
年度目標	入学時オリエンテーションで新入生にカリキュラムポリシーを徹底する。
年度報告	入学時オリエンテーションで新入生にカリキュラムポリシーを徹底した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ②2019年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	学部教授会、学部運営委員会、学科会議などで一貫性を検証し、一貫性があると判断している。
年度目標	カリキュラム・ポリシーの適切性の検討や、カリキュラムマップの見直しを継続的に行う。
年度報告	経済学部運営委員で検証した結果、一貫性があるという結論に至った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録 ②学部運営委員会メモ
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、学科の特色ある教育課程を編成している。特に海外経験と欧米、中国および東南アジアと日本との結びつきをとらえる科目やトップ10カリキュラムなどを体系的に設置している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	現状の編成を維持すると同時に問題点があれば改善する。
根拠資料	経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	卒業要件として初年次教育科目、外国語などの共通基礎科目、教養教育科目、キャリア教育科目の卒業必要単位数を設け、学生に学生便覧で公表しており、十分に実施されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ ②2018年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	アクティブラーニングを教養ゼミ、基礎ゼミ、演習などの少人数クラスを中心に取り入れている。また、教材の配布、課題の配布と提出、学生へのフィードバックなどにゼルコバやセレッソを利用している。金融系を中心にブルームバーグ、日経テレコム、日経FinancialQUESTなどを活用し、データベースを利用した授業課題、仮想取引システムを利用している。
年度目標	ゼルコバ、セレッソについてはさらに利用を進める。
年度報告	現状の取り組みを継続した。ゼルコバ、セレッソの利用は進んでいる。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	学科に設定されているディプロマ・ポリシーに示されている学修成果を達成するために、学部の必修科目、学科の必修科目、学科の選択必修科目を置いている。学生はこれにしたがって履修すれば、学修成果を体得できる。きわめて具体的であり、整合的である。経済学部・学科の進級・卒業基準は学生便覧に明示している。適切性については教授会で議論し、可能な限りで卒業要件を守るようにしている。

年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ ②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	大学の教育理念の下、相互に整合性をもったアドミッション、カリキュラム、ディプロマの3つのポリシー、並びにカリキュラムマップが策定されている。点検・評価方法としては、ディプロマポリシーに沿ったカリキュラムポリシー表の作成や卒論ルーブリック表を作成して、評価を行っている。さらに平成31年度からはアセスメントポリシーの本格的活用が始まる。
年度目標	今後もカリキュラムポリシー表、アセスメントポリシー、卒論ルーブリック表、学科教育プログラム自己点検・評価報告書により検証を継続する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。アセスメントポリシーについては、今後も活用する予定である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センターアセスメントポリシー資料 ②Cerezo ③2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	学生による授業評価アンケート結果に対して、口頭またはセレッソを通じてフィードバックを行っている。この評価結果に基づき、教員が学修指導等の改善につなげている。
年度目標	学生による授業評価アンケートに関しては、現状を維持する。また、アセスメントポリシーに基づく学科教育プログラムについて点検・評価を実施する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

中長期計画	中長期計画は、これまでの「平成24年度、25年度年度計画」と26年度の「経済学部構想」に基づく。教育研究組織としての学部学科のありようは、平成26年度からの新しい目的、新しいディプロマポリシーにおいてすでに明らかにされている。これらにしたがって、学科に基本となる講義科目、それを担当する研究者を採用してきた。学部内でのFD研修や教員の研究しやすい環境づくりを検討する。
--------------	--

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長の指示する大方針に基づいて、個々の科目にまで至る経済学部・学科教育が実施されている。経済学部長、学科長は大学教育センターの方針に従って学部・学科教育を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①全学教授会議事録②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	学科教員はそれぞれ全学的な委員会に属しており、学科内で役割に応じてイニシアティブを発揮している。また、特定の個人に役割が偏らないように、学部運営委員会にて調整している。
年度目標	限られた人的資源で効率よく職務を行う。
年度報告	教員の努力により少人数で多岐にわたる職務を行った。
達成度	S
改善課題	学科教員数が少ないので各学科1名選出や委員は教授のみなどの縛りをなくしてほしい。
根拠資料	各委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員は適正に配置されているが、少ない人数と業務内容が多岐にわたるため、役割はあまり明確化されていなく、総合的にまた臨機応変に職務に当たっている。
年度目標	機能性を高めるために教職員が協力する。

年度報告	特に海外研修等で協働した。海外研修は職員の協力なしの実施不可能である。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①トップ10プログラム計画書②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	学科の教員数は設置基準に適合している。非常勤講師の力も借りて学科のディプロマポリシーを実現できるカリキュラムを組んで実施できている。新規教員採用時には担当分野の研究業績を精査している。年齢別構成40代3名、50代3名、60代2名、70代1名である。うち外国人教員2名、女性教員が1名であり、教授4名、准教授3名、講師2名であり、ほぼ適切に整備されている。
年度目標	定年退職予定者がいるため新規採用人事が必要となる。
年度報告	新規採用人事を行った。
達成度	S
改善課題	さらなる採用人事が必要である。
根拠資料	2019年度教員選考委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	現在は大学設置基準を満たしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	教員の急な退職により、教授の人数が不足することになり、他学科からの転籍で補った。
達成度	A
改善課題	昇任人事、採用人事が必要である。
根拠資料	2019年度経済学部人事計画
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	学科による単独実施ができなかったが、全学や経済学研究科等によって実施された各種FDへの参加をして、教員の資質向上は図られている。
年度目標	授業改善に関して学科でFDを実施したい。
年度報告	学科で授業改善に関するFDを実施した。
達成度	A

改善課題	授業改善や学生の語学力向上に関して学科でさらにブラッシュアップする必要がある。
根拠資料	学科FDメモ
次年度の課題と改善の方策	授業改善に関して学科で継続してFDを実施する。

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	全学的なFD・SD活動に参加することで大学運営にかかわる教職員の資質・能力向上は図られている。特に学科独自の取り組みは行っていない。
年度目標	授業改善に関して学科でFDを実施したい。
年度報告	授業改善のFDを学科で実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	学科FDメモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	活用はゼルコバ、セレッソ、Office365の一部機能であり、限定的である。
年度目標	より効率的に活用を進める。
年度報告	活用を進めている。
達成度	A
改善課題	学生の状況を教員間で共有できるようさらなる活用を目指す。
根拠資料	①ゼルコバ②Cerezo③Office365
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	全学的な委員会の数が多く、各教員の希望や適性に応じた役割分担ができていない。教員は全員複数の委員会を掛け持ちしており、研究に専念する時間の確保は難しい。研究室は各自1部屋与えられており十分に確保され、管理されている。
年度目標	メール会議の実施やICTの活用により、業務を効率化する。
年度報告	研究に専念する時間不足感及び役割分担の負担の主なものは委員会の負担によるものであるが、教員の適正を考慮して委員選出をした。不要な会議を減らし、メールで済むことはメールを利用した。
達成度	A
改善課題	教員数の減少により、引き続き不満感を最小化できるように委員を決定する。

根拠資料	2019年度経済学部委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	大学の規定に準じて教員に周知している。また、学部内で研究倫理に関するFD研修会を実施している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録②研究倫理研修資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	個人研究費、学内助成金、ブランディング事業への参加等研究活動への資源配分や運用は適正に行われている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	2019年度経済学部委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	FD研修を受け、また、インターネット上で講習を受けテストをしている。これにより十分周知されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学部研修会資料②研究倫理研修資料
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

中長期計画	平成26年度に提示された学部の新しいミッション、学科のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに基づき、そして、それらを具体化した新カリキュラムに従って計画される。国際経済学科においては、地域に貢献できるグローバル人材の育成という大目標のもとに、1年次から学生を海外研修に連れ出し、自分の五感で海外を体験させ、2年次にはトップ10プログラムで問題解決型の海外研修を欧米・中国・東アジアの3地域のうちいずれかで行う。3年次には海外長期留学や海外長期ボランティアを体験させ、海外と日本を比較することで、より日本をよく理解できるよう研修を行う。年2回のTOEIC模擬試験と年1回のTOEIC公開試験の受験などの成績をポートフォリオ化し、学習成果の可視化を行うとともに学習の質を保証する。また、アセスメントポリシーに基づき、PDCAサイクルを回す。
--------------	--

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	内部質保証のための組織としては、学科会議、学部運営委員会、学部教授会があり、学部長を中心に責任体制は確立している。自己点検評価については、学科長と学部長が責任をもって作成している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定②福山大学経済学部自己点検評価委員会細則③2019年度卒業論文要旨集④2019年度教授会議事録⑤2019年度自己点検評価書⑥福山大学学則、福山大学学部長会規定
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	問題を早期に発見し可能な対応を運営委員会で協議している。問題が発見されると、運営委員会、教授会での審議等を通じて、適宜、解決につなげている。 また、学科教員の協力を得て、学科長を中心に自己点検・評価を行い、それを学部運営委員会に提示し、検討されており、システムが確立されている。 学生による授業評価は実施され、教員による対応もシラバスに掲載されるが、この全体が公表されているわけではない。授業評価の全体像はホームページ公表されている。また、大学による学生に対する各種アンケートも公表されており、その結果を学科教員が共有している。教員評価も自己点検評価の一部であるが、結果は公表されておらず、共有していない。平成26年度に経済学部は外部評価を受けた。その結果はホームページで公開されている。その他の諸活動に関しては、学科ホームページ、学長室ブログ、学科Facebookなどを通じて情報を共有している。
年度目標	学生による授業評価アンケート結果や自己点検評価の結果を共有し、向上に努める。
年度報告	共有するには至らなかった。

達成度	B
改善課題	
根拠資料	①2019年度自己点検評価書②経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	学科会議等を利用して教員間で結果と問題点を共有する必要がある。
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	高校時代の成績や入学試験の成績による分析は学科単独での分析は行っていない。学生の入学時の英語力と入学後の英語力と検定試験結果については、一部分析を行っている。
年度目標	その他についても大学教育センターIR部門の分析結果を利用して分析を試みたい。
年度報告	英語以外の科目については分析できていない。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	学科教員の協力を得て、学科長を中心に自己点検・評価を行い、それを学部運営委員会に提示し、検討されており、PDCAサイクルが確立されつつある。学生による授業アンケート評価結果については学科教員全員の結果を公表しておらず、組織としてのPDCAサイクルは確立していない。
年度目標	学科にて授業評価アンケート結果に基づきFDを行い、組織としてのPDCAサイクルの確立を目指す。
年度報告	授業評価、授業改善に関して学科にてFD研修を実施した。
達成度	A
改善課題	学科教員間での授業評価とアクションの構築。
根拠資料	①授業評価アンケート報告書②学部運営委員会メモ③学科FDメモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	全学ならびに学部の方針にしたがっている。コンプライアンスにかかわるFD講演への参加を促している。また、学科会議等による相互チェック機能によりコンプライアンス意識は保持されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事②全学SD研修会資料③経済学論集投稿規定
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2019年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	国際経済学科における里山里海学については、訪日外国人客の増加や、農林水産物等の輸出・移出により福山市における里山・里海の潜在的な観光資源を生かし、地域の活性化を図ることになっている。また外国人旅行者の増加や、備後地域の里山・里海の特産品の海外ネット市場へのアクセスの方途を検証することになっている。 備後経済研究会については、備後地域の産業集積の現状を歴史的理論的に解明することになっている。個別企業、個別業種のデータを整備し、データベース化を図り事例分析を行うこととしている。
-------	--

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	（学部基準） 本年度における経済学部のブランディング事業は次のとおりである。 備後地区の里山里海資源が、地方再生に向けた具体的役割を検証しつつ内海町、広瀬町など周辺の取組みを事例に可能性を探る。海外市場開拓については里山里海の特産品の海外市場へのアクセスを巡る問題点、解決策を中心に考察する。また観光産業は地域に眠る観光資源についてその実態を客観的な視点から関係者への取材、アンケートを通して地域資源の新たなビジネスの活用やポテンシャルを探る。さらに備後地域の食品産業の実態と農林水産資源活用の可能性について考察することになっている。 今年度の計画については、年度初めの学部教授会で周知している。また備後経済研究会は、研究会、講演会の開催時に教職員へ周知している。また関心のある学生・院生・社会人についても参加を呼び掛けている。周知については、問題ないと判断している。
年度目標	現状を継続する。
年度報告	（学部基準） 経済学部は、ブランディング事業運営委員会を中心にして、里山・里海資源に基づく備後地域の産業競争力強化と雇用力増進との好循環の創出可能性について取り組んでいる。ブランディングについては、例年通り年度初めの学部教授会で周知した。また備後経済研究会などイベント開催に合わせて学生・院生・社会人に周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ-研究・産学連携 瀬戸内の里山・里海学 ②2019年度経済学部外部評価関連資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	(学部基準) 社会に貢献する観点では、里山里海資源が、地方再生に向けた具体的な取り組みをテーマにして可能性を探ることになっている。また里山・里海経済のグローバル化の視点で検討している点で实际的である。他との差別化を図る点では独自の観光産業の活用を図っている。以上のことに対しては、地元企業との連携を重点的に取り組むことにしている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部基準) 備後地域は全国的にも有数の産業集積地である。経済学科教員は、福山商工会議所の経営改善委員会責任者として参加している。また国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業などは地域における中心的な取り組みとして実施した。里山里海に関連する地域再生は独自の努力を続けており地元連携を深めた。税務会計学科の備後経済研究会は、業界、企業に対して大きな貢献を果たしている。地域との積極的な連携を通して地域貢献に努めた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」7月号
次年度の課題と改善の方策	来年度も新型コロナウイルス問題の状況を見ながら、海外研修を実行する。
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	備後地域の産学官民連携を推進の点では企業・行政と連携して事業をしている。関連する事業は備後経済研究会である。備後地域における各種業界の協力を得ながら一体となり、資料の発掘、発見、収集に努めている。また研究会、講演会を通して研究の成果を広めている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部基準) 経済学部は、福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」で紹介したとおり、全人教育を基底にした人材育成に努めている。トビタテ、フィリピン研修、インドネシア研修を始め、国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業は国際社会に直接つながるものとして定着した取り組みになっている。また中国市場に進出している備後地域の食品産業の課題をふまえ、企業戦略、経営を明らかにした。大学院のゼミナール、産学連携の成果発表、経済学論集での発表、また中国経済論などで国際社会につながる人材育成に努めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」1月号 ②福山大学経済学部論集第43巻 (劉) ③福山大学経済学論集第44巻(大城)
次年度の課題と改善の方策	来年度も新型コロナウイルス問題の状況を見ながら、海外研修を実行する。

点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部準ずる) 里山・里海学では、観光、流通、商工業振興など備後地域の特性を生かす取り組みを行っている。特に新年度では、内海町などの里山里海の資源が地方再生に向けた今後の可能性を探ることにしている。備後経済研究会は継続して産学連携を進めており、また事業の途中であっても業界、市民へ成果を還元している。
年度目標	里山里海資源が内海町などでどのように生かされているか検証し、問題点を探る。
年度報告	(学部準ずる) 経済学部は、昨年10月福山商工会議所と連携して中国経済シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、西村友作氏(対外経済貿易大学)、地元を代表する企業責任者などをパネリストとして110名の参加があった。国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業は地域における中心的な取り組みをしている。また本年1月、福山商工会議所議員全員協議会で、税務会計学科 張楓教授が、「地域がつくる産業、産業が作る地域について」講話した。出席者は会頭をはじめ70名で熱心に聴講した。また、劉准教授、大城講師は、研究成果を福山大学経済学論集への掲載をしている。また、『備後福山の社会経済史』(日本経済評論社2020年)発行や備後経済論の連携を進めている。 里山・里海のモデルとして広瀬町、内海町を取り上げた。ともに高度成長期に生活道路が整備されまた念願であった連絡橋が完成した。地元から長年期待された大型インフラ整備が逆に里山、里海の魅力を失いつつあることが判明した。 今年度実施した外部評価委員会では、企業代表の外部評価委員からこうした実績をふまえ、さらに企業懇談会、シンポジウムなどの取組を行い企業からの意見を聞いていることは大変良いことと評価を受けた。また外部評価委員の全体評価でも高い評価であった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所「商工ふくやま」1・2・3月号ほか ②中国経済シンポジウム開催要項 ③張楓編『備後福山の社会経済史』日本経済評論社2020 ④福山大学経済学部論集第43巻(劉) ⑤福山大学経済学論集第44巻(大城) ⑥経済学部外部評価報告書 ⑦地元関係者面談記録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部準ずる) 備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えている。このためトップ10、備後地域研究、備後経済論などは、グローバル、里山・里海の特性を生かす取り組みを行っている。経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元で就職し活躍している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	(学部準ずる) 経済学部の志願者には、就職率が良い、資格に熱心という評価が多い。産業界は即戦力、実践力を求めている。経済学部では、ビジネス検定、証券外務員、日商簿記、MOS検定などの合格実績が上昇している。また地域に関連した、トップ10、連携事業としてのグローバル人材育成事業など中核的立場で計画的に実施した。備後経済コースでは、地域調査、備後経済論を開講し実践的な人材育成に努めている。地域調査では、特定の企業と円滑に実施するために基本協定を締結した。経済学研究科は、税理士養成に関して他にない特色を有し、関係者から高い評価を得ている。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各種資格の取組み実績 ②2019福山大学学生便覧 ③地域調査基本協定 ④経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部基準) 里山・里海の経済をグローバル経済に繋げていく、市場調査、食品産業の実態、また新年度では、内海町などの里山里海の資源が地方再生に向けた今後の可能性を探ることになっている。備後経済研究会は、本年度から定着した取り組みとなり学部の事業へ移行することになった。個別の企業、個別業種のデータを整備し、データベース化しながら事例分析を行うことにしている。上記のことを、主要には大学ホームページにより周知を行い、行政関係、企業経営者、一般市民などが参加している。平均的な参加者は15名程度で、成果が検証できると判断している。
年度目標	今後もこれらの講義を受講するように周知する。
年度報告	(学部基準) 経済学部では地域との関係を重視して、広瀬地区、内海地区の活性化施策について地元団体と連携した取り組みをしている。また備後圏域の里山・里海を活性化する観点から中国市場への販売ルートについては、里山・里海に関連する食品産業などが新興市場に対するアクセスの可能性について研究し、ホームページ、大学院のゼミナール、産学連携の成果発表などを通して行政関係者、企業経営者から高い評価を得ている。備後地域の企業研究については、研究会を定期的に開催したり、福山市史編纂に加わるなど関係者から高い評価を得ている。 今年度実施した外部評価委員会では、経済学部のブランディング評価に関して評価員の評価点は、4点満点でブランディング戦略の推進3.5、推進研究プロジェクト3.0と高く評価されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部基準) 学問にのみ偏重しない全人教育として、企業・行政連携での学びを通し、行動の重要性が考えられるような取組を重視している。具体的な例では、昨年4月から福山商工会議所の月刊誌(発行 5,700部)に、経済学部を紹介している。この中で「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマとして人材育成、地域連携などの魅力を発信し、企業経営者などから高く評価されている。他においても機会があれば引き続き取り組む。里山・里海学、研究会においては、観光、流通、消費、また産業界と密接に関連したテーマであり、報告会の内容、参加者等を通して検証している。
年度目標	今後もこれらの講義を受講するように周知する。

年度報告	(学部基準) 経済学部は民間分野と直接関連している。昨年度福山商工会議所の月刊誌「商工ふくやま」に経済学部が掲載した共通テーマは「知行合一を基底にした全人教育」であった。多くの企業経営者から激励と高い評価を得ている。またブランディングの研究テーマは、グローバル経済の進展、地域の産業形成などであり計画的に実施した。税務会計学科では、地域調査、備後経済論などの授業を通して産業界と連携して全人教育を意識した人材育成を行っている。これらのことから年度目標は達成した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所「商工ふくやま」2019年1～3月号(No.651～653) ②2019年度福山大学学生便覧 ③2019年度経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	学部内でプロジェクトチームを作成している。メンバーは張楓を中心に、尾田、平田、佐藤、大城、また大学院担当として春名、合計で6名である。また予算要求、執行等に当たっては、他の教員、学部事務室が円滑に推進できるよう支援している。学科全体のバックアップ体制はできている。
年度目標	学科を挙げて取り組む。
年度報告	(学部基準) 研究プロジェクトに直接関係する教員は張楓ら前年度4名から6名となった。参加体制は強化した。一部の関係教員が他の業務に追われ研究プロジェクトに専念する時間が必ずしも十分でなかった。また年度末には新型コロナウイルスによる感染防止から調査活動が制限されるなど研究活動の計画が進まなかった。
達成度	A
改善課題	教員、事務部局の連携を図る。
根拠資料	①経済学部委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	新年度から備後圏域経済・文化センターが創立されるので、学部教員全体が関心を持ち参加する意識を高める。
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	(学部基準) 外部資金獲得に向けて公益財団法人などと協議したが申請者は県内企業者であること、また事業期間は基本的に単年度であることなどから不調に終わった。現在は一般財団法人と資金確保に向けて協議を行っている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	(学部基準) 平成29年度に一般財団法人から一部助成を得たが、平成30年度は諸般の事情から断念せざるを得なかった。公益財団法人などと協議を行ったが不調であった。このため資金獲得に向けて取り組んだが前年に続いて不調であった。
達成度	B

改善課題	関係機関に対して趣旨内容の理解を求め、引き続き資金獲得に向けて取り組む。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	里山・里海学に関しては、計画の途中であり、現在まで発表していない。
年度目標	成果が出次第、論文や学会発表など様々な形で発表する。
年度報告	(学部に準ずる) 中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行った。企業調査では、『福山市史』の編纂に携わり、また福山商工会議所議員全員協議会で、税務会計学科 張楓教授が、「地域がつくる産業、産業が作る地域について」講話した。出席者は会頭をはじめ70名で熱心に聴講した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学公開講座資料 ②福山大学経済学部論集第43巻(劉) ③福山商工会議所「商工ふくやま」2月号(No.664)
次年度の課題と改善の方策	